

ホタテガイ採苗速報

稚貝採取は西湾、東湾ともに、2分のネットで7月中旬からできる見込み
ムラサキガイの付着数が多い地区では、早めに稚貝採取を始めましょう

1 ホタテガイの付着状況

6月17~21日に行った第2回全湾付着稚貝調査結果は図1~3および表2、3のとおりで、ホタテガイ稚貝の平均付着数は、間引きや袋替えを行わないものでは西湾で3,183個/袋、東湾で23,486個/袋とそれぞれの平年値(過去10年の平均値)129,783個/袋、357,072個/袋よりかなり少なくなっています。

稚貝の平均殻長(間引き・袋替えなし)は、西湾で2.24mmと平年値2.32mmとほぼ同じく、東湾で2.07mmと平年値1.56mmより大きくなっています。

2 キヌマトイガイ・ムラサキガイ等の付着状況

キヌマトイガイとムラサキガイの付着数(間引き・袋替えなし)は、全湾平均で725個/袋、5,719個/袋とそれぞれの平年値145,339個/袋、92,236個/袋よりかなり少なくなっています。

なお、採苗器の中にウミセミが見られた地区がありましたが、ヒトデの付着は見られませんでした。

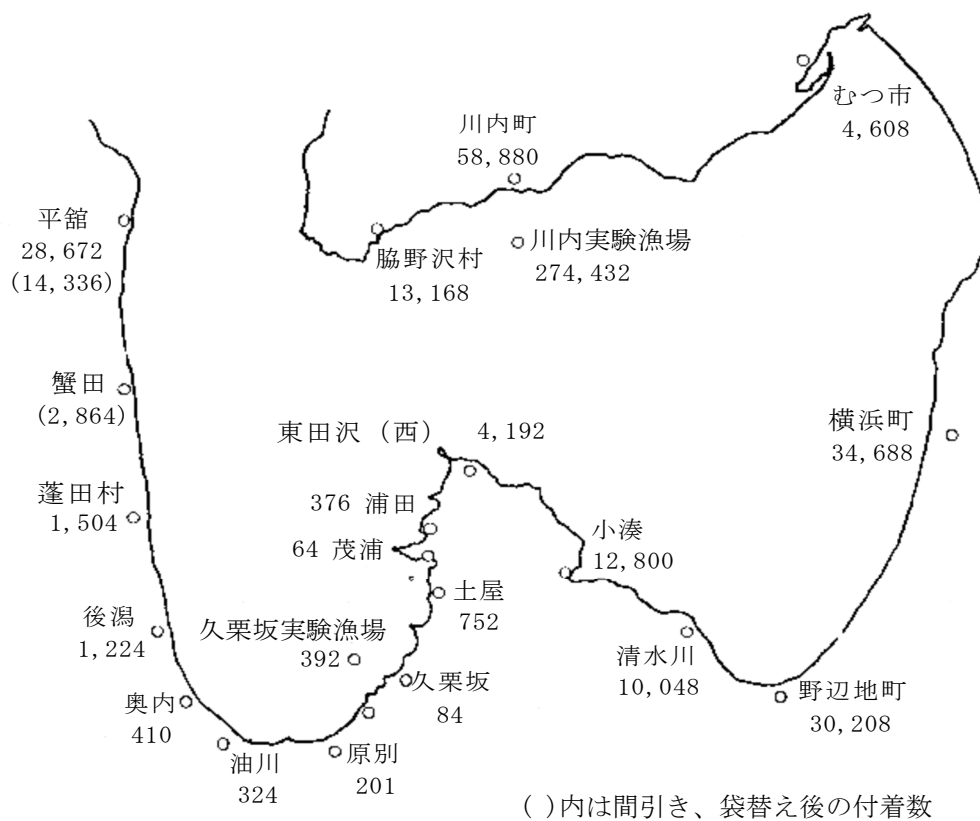


図1 調査地点毎の付着数〔単位：個/袋〕

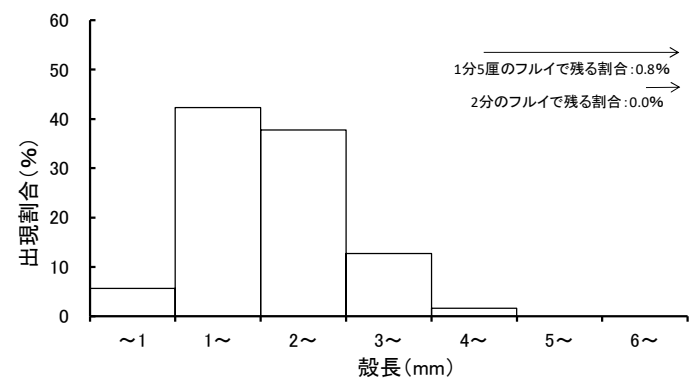


図2 間引き・袋替えなしのホタテガイ殻長組成 (西湾平均)

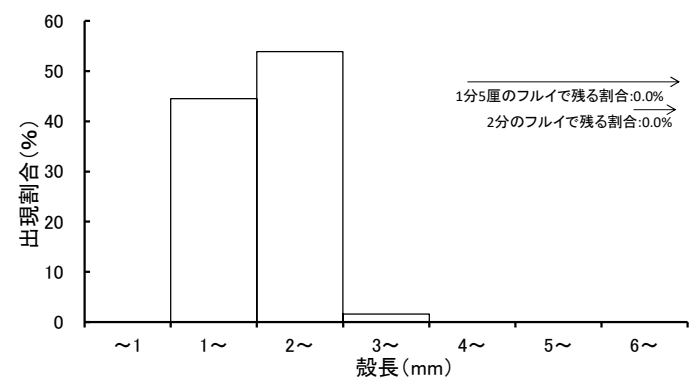


図3 間引き・袋替えなしのホタテガイ殻長組成 (東湾平均)

3 今後の見込み

西湾、東湾ともに間引きや袋替えを行っていない地区では、1分5厘のネットに稚貝採取する場合、フルイに5割残るのは7月上旬から、2分の場合は7月中旬からの見込みです(表1)。西湾と東湾でフルイに8割残るのは、1分5厘で7月中旬、2分で7月下旬の見込みですが、ムラサキガイの付着数が多い地区では、早めに稚貝採取を始め、早めに完了しましょう。

表1 西湾と東湾の稚貝採取予測時期(間引き・袋替えなし)

| 目合 | フルイに残る割合 | |
|------|----------|------|
| | 5割 | 8割 |
| 1.5分 | 7月上旬 | 7月中旬 |
| 2分 | 7月中旬 | 7月下旬 |

なお、稚貝採取時の注意事項は裏面にあります。

稚貝採取の詳細な時期については、7月4日に第2回臨時付着稚貝調査(中層1袋。ただし、間引き・袋替えを行った地区では作業後の袋)を実施し、7月7日発行予定のホタテガイ採苗速報第11号に掲載しますので、参考にしてください。



①



②

4 稚貝採取時の注意事項

(1) 小さな稚貝も活用しましょう。

○目合いの異なるフルイを二重にして、ムラサキガイを落としましょう。

○目合いの細かいフルイに残る殻長の小さな稚貝を再度採苗器に入れ、垂下しましょう。

(2) 稚貝を大切に扱きましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○高水温時にはタライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げるようにしましょう。水温上昇や酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になる危険性があるので、タライや水槽の水はかけ流しにするか頻繁に交換しましょう。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（表面URL、QRコード）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

○稚貝採取が遅くなるほどムラサキガイが成長し、ホタテガイ稚貝とくっつきやすくなり、作業効率が悪くなるので注意しましょう。

○採苗器内の稚貝は成長や水温上昇に伴い、袋の下に落ちて溜り、異常貝率やへい死率が高くなるので、稚貝採取は早めに完了しましょう。

(3) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。稚貝がへい死しない分散時の中層水温は23℃以下です。分散が遅れると稚貝が成長し、過密状態になることから異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少なめ（50～100枚/段）に入れましょう。

(4) 採取後の管理に気をつけましょう。

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。

○水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を中層以深に沈めましょう。また、立ちきり（土俵）やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。

○採取後も一部の採苗器を残しておきましょう。